

2024年2月19日(月)

老球の細道774号

## ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅱ〉【どこのドイツだ】①

会津バスケットボール協会 室井 富仁

若い頃はアメリカのバスケットボールに憧れていた。アメリカの文化、生活にも好奇心盛りだくさんであった。しかし、ここ数年来、バスケットボールを始めとするグローバルな私の好奇心はヨーロッパに向いていた。ドイツのトスティン氏との出会いもあり、そして世界のスポーツトレーニングの新しい流れがドイツをルーツとすることからもある。コーディネーショントレーニング、スタビリゼーション、基本の重視等。

19年前(2004)に初めてドイツへ行ってきた。その時の充実感が忘れられず、2009年再びドイツへ旅立った。2回目はチェコ・プラハでの研修も付加され、興味はさらにバージョンアップした。プラハは町並みが世界一美しいと讃えられ、街全体が世界遺産に登録されている。また、余談になるが、女性は世界一美人であり、ビールも世界一の消費量を誇る。もちろん、バスケットボールのレベルは高く、ヨーロッパでも強豪国である。

2回目のコーチング研修ツアーは千葉県のある会社が企画した。この会社は株式会社『ERUTLUC(エルトラック)』という。バスケットボールの家庭教師を主な仕事としているスポーツのベンチャー企業である。社長は現在日本女子代表のアシスタントコーチをしている鈴木良和氏である。当時、この会社とトスティン氏がコラボレートして『EURO BASKETBALL ACADEMY』なる組織を作り、日本とヨーロッパのバスケットボールの橋渡しをすることをねらいとして今回のツアーを企画した。この会社の先見性と魁スピリットに敬意を表したい。

ちなみに千葉県を中心とする関東圏ではバスケットボールの家庭教師なるものがビジネスになっていることには驚かされる。都会ではスポーツ文化、バスケットボール文化が認知され、バスケットボールにお金をかけてまで上手になりたいという需要がたくさんある。経済的な余裕、精神的な余裕の差か。

このツアーに参加したメンバーはスタッフ、通訳を入れて、北は北海道から南は愛知まで30名。ほとんどが20代の元気一杯、夢一杯の若者達であった。残念ながら当時は私が最年長。会津からは当時葵高校の菅野香代先生(現須賀川支援)、星博之先生(現若松商業)、佐藤公希氏(現城北行仁ミニバス)、二瓶誠二氏(前坂下ミニバス)、そして私の5名で会津地区が最高人数の参加で、会津をアピールするのに十分であった。福島県からは他に3名参加。当時県少年女子のヘッドコーチ・渡辺拓也先生夫妻(現福島南高校)、桑田粒哉氏(現郡山商業高校)。変わり種では、日本サッカー協会のコミュニケーションスキルコーチや当時のbjリーグ東京アパッチの元コーチなども同行していた。

このツアーを通じてバスケットのすばらしさを改めて確認し、日本だけ、会津だけ、自分のことだけの発想ではなく、世界をとらえながら物事を考えていく思考を身につけたかった。そんな偉そうなことを言っているのはどこのドイツだ?すみません。(続く)